婦人と新社會

山田わか主筆

四月號

科學と宗教

普選と家庭

自治的精神と我が國民

生きた自由とは

自治的精神と家庭

青年男女の目標

『日本第一』

八十年以前の或る佛蘭西人の豫言

二種類の結婚

——編輯の後——

大正九年三月二十三日第三種郵便物認可
大正十五年四月一日印刷納本

毎月一回一日發行　第七十三號　大正十五年四月一日發行

東京[illegible]婦人と新社會[illegible]發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

科學と宗教

科學と宗教との統一と云ふことに對する私の態度は信仰を理解しようとする信仰それ自身である
理解則ち科學が先きに來て、信仰則ち宗教が後から來るのではなく、信仰が先きに來て其の信仰
自身が確立し、そして、理解則ち科學は其の直接な自由な確立した信仰を反射的に自覺ある確信と
爲すのである。

さう云ふと、宗教的世界觀は知力的の證明と證據とを必要とする假說論だと非難する人があるか
も知れない。

勿論、信仰の確立と假說の試驗との間には大なる差がある。

けれども、私が今此處で云つてゐる宗教が假說でないと云ふのは、私は宗教が出來るかどうかと
云ふことを疑問としない。如何にして宗教が出來たかと云ふことを問題としてゐるからである。

私は宗教を事實、否、必然の事實として見るものである。故に、私の爲そうとすることは、人間
の經驗のうちに宗教の根を探り、それを理解する必要を提唱することだ。そして、私はこれを科學
は確かなものだと云ひ宗教は疑はしいものだと宣言する人達に向つて云ふ。

前にも云つたように、宗教は事實である。そして、私自身の生活と思想に付て云へば、信仰則ち
宗教は私の生活の基礎となつてゐる。從つて、私の科學及び哲學は其のどんぞこに於ては信仰を理
解しようとする信仰それ自身である。

云ひかへれば、私の宗教並びに哲學は私の文章に現れてゐるよりはより多く私の生活其のもので
あると云へる。

普選と家庭

自治の精神と我が國民

普通選擧法施行令が一月三十日公布されました。今日の政治の腐敗が難ぜられ、その行きつまりが呼號されてから既に久しいものであり、そして、その局面展換の最善な、かツ、唯一の方法として普通選擧の施行といふことになつたのですが、しかし、次の總選擧にこの新らたなる政權が正しく、賢く使用されるかどうか？一體、一般人並に彼らの指導者らが自治精神の本當の意味を了解してゐるかどうか？

もし、かれらが自治精神の本當の意味を了解してゐないとするとこの新らしい政權は私共國民のために非常なる不幸の源となります。

自由のために苦鬪を續けること十三年ツヒに合衆國の基礎をきずいた人ジエフアソンはいひました。

「國防や外交は中央政府に州に關する行政は各州政府に、郡の行政は郡役所に、市町村に關する行政は各市町村に、そして、最後に家庭に關する事柄は、各家庭にまかせなければならない」と、つまり合衆國といふ大きな共和國を健全な平和な幸福な國となすには州共和國、郡共和國、市町村といふ共和國が健全で平和で幸福でなければならず、そして、何は置いても各人の家庭が健全な平和な幸福な共和國になつてゐなければならないといふのです。

そして、又いつてゐます。

「この地球上にかつて存在したあらゆる政府において、國民の自由と權利を破壞したものは

何にか。それは凡ての權力、及び一切の事務を總括して中央政府といつたようなものに集中してしまつたからである、もし、神が凡ての人間を自由にしてはならないと命令しなかつた以上は一人々々の人間をして彼自身の義務と權利のたくはへ所であらしめなければならない。いひかへれば、個人の手の屆く範圍の事柄に關しては國民各自が一切やつてのけて他人の干渉をうけないようにする。そして、個人の手の屆かない事柄は市町村の手に、市町村の手の屆かない事柄は郡に、それから縣に、それから國の手にと移して行くのだ。故に、まづ、國民各自が他人の權利を侵害せず、自分も他人の干渉をうけないといふことになつて、始めて自治の實があがるのである」と。

　つまり、共和國はまづ第一に國民の一人々々が自治の人間でなければ成り立たない。自己を治め、そして、市町村といふ共和國、郡といふ共和國、縣といふ共和國、最後に合衆國といふ共和國の經營に自分が加はつてゐること、いひかへれば政治に參與してゐること、即ち、國事の一部を負擔してゐることを感じ、そのような行動をとつてゐることが本當の共和國民だといふのです。

　日々の生活におけるさういふ態度が本當に政治に加はることであつて、選擧をしたり、されたり、政談演説會を開いたり、それをききに行つたりすることのみが政治への參加ではない。自治の精神に目ざめ、そして、本當に公平に國民としての義務を遂行することによりて、人は名實共に政治家になるのだといふこと、故に、各人が政治から、すなはち、政府から無關係にならうとすることはいはゞ自分の體內から心臟を切りはなそうとするのと同じく不可能なことだともいつてゐます。

　實に、これは民主々義的政治の眞ずいをとい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

たものですが、我が國において、民主々義的政治、すなはち、普選がいよ〳〵施行された今日一般國民が果してその意義を了解してゐるかどうか？

一般國民ではない、彼らの指導の任に當らうとするいはゆる新人なるものゝ言說及び生活を見る時に私共は大なる不安を禁ずることが出來ません。

彼らは彼らの周圍にない至社會に對する苦情又は要求のみが大きくて、周圍にない至社會に彼らが拂はねばならぬ義務といふことを考へてをりません。

否、社會に對する義務どころではない、自分自身に對する義務すらもはたしてゐない。具體的にいへば、自己の生活のためにすら働こうともせず、或は、自己の口を糊する用意も無い先に人の親となつたりして、そして、貧乏を社會に訴へたところが社會はどうすることも出來ない。さういふ訴へを一々取り上げてゐたなら社會は乃至國家は一日にして倒れてしまひます。

わが國民の大部分はまださういう無責任な、非自治的な國民です。

民主々義的政治、則ち、普選といふ大きな器械がいよ〳〵輸入されました。その器械の運轉方を知らない、わが國民があまり多くの人をひき殺さないことを私はひたすらに念じてをります。

生きた自由とは

民主々義的政治の眞髓を解さず、單なる形式をもつて一般國民並に指導者らが滿足してゐるといふのは、要するに彼らが自由の意義を取り違へてゐるからです。

無產者並に婦人はどれいの位置におとしいれられてゐると叫ばれてゐました。見方によつてはそれに相違ありません。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ところで、無産者並に婦人解放の重要なる一階段として參政權が要求され、そして、婦人の參政はいまだしであつても、男子の普通選擧は施行されて、そして、それが民衆の自由の獲得であるように喜ばれたのでありますが、にもかかはらず私は大なるきぐを抱いてゐることは前段において述べて置きましたが、一體、一般の自由の觀念は大いに誤つてをります。本當の意味の自由といふものは他人から與へられるものではなく自分から到達して行くべきものです。

個人の自由を束縛するものとして、傳統だの法律だの、道德だの宗教だの、其の外無數のものがあげられてゐました。つまり、人は現存してゐる社會に生きてゐては自由は得られないかのように考へてゐました。

或は、又、自由とは外界からの何らの干渉のない孤立した一人の生活であるようにも考へられてをりました。他人と接觸すれば、その他人の自由を考慮しなければならないから、それだけ自己の自由なるものが奪はれるものであるようにも考へてゐたのです。といつて人は社會から全然離れて生きて行こうともしない。ですから、そこに大きな矛盾があり、かつ錯覺があつたのです。

自由は與へられるものではなく到達するものだといひましたが、どうして自由に到達するかといふと、それは現存してゐる社會秩序を無視することでもなく、ましてや、破壞することではなく、その社會秩序の中へ自分がとけこんで行くことです。つまり、社會と自分とを同一視することが出來る時に人は最高に自由な位置に到達したのです。

私どもが、感情において、思想において、意志において社會的である時に私共は自由です。なぜなら、社會は私共を通じて社會が欲するところを行ふ事が出來ます、そして、それが私ど

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

もの自由であるのです。
われ〳〵が社會であり、社會がわれ〳〵であるといふ觀念を強くすることによつて社會のために働くことは喜びであり、從つて、それが自由です。
いひ直せば私ども各自がお互に調和出來た範圍において私どもは自由です。なぜなら、私どもは他人との完全なる調和においてのみ自分の全人格を現すことが出來ますから。
かう解釋して見ると、自由意志といふものは一時的の出來心でもなく、生活のうちの或る一部分の完成でもない、その反對に、自由とは、一時的な又は部分的な欲望を遂げようとする本能の力を抑へつけてしまふことです。
私どもの全部としての生活の完成を妨げようとする一時的な、又は部分的な、本能の要求を徹底的にしりぞけて、全部としての眞個の自分の命令に從ふこと、そして他人とむすびつき、自分と他人との意志をあみ合せることによつて私どもの自由は增加して行くのです。
實に、自由とは持つて生れた力、踏みつけられもせず、又、踏みつけもしないで、調和して行くことです。
ですから、自由とは決して靜止の狀態にあるものではありません。一度得て置けば永久にあるといふ性質のものではなく、各しゆん間に創造して行かなければならないものです。
これを一言でいつて見るならば個人の意志と社會の意志とを同じように見る時、そして、同時に、その意志が人生の最高なる活動となつた時、それが各人の最高なる自由です。

自治的精神と家庭

民主々義的政治の成功はジエフアソンがいふように、まづ、家庭から始められなければならない、家庭が健全な一小共和國であるためには

共の家庭を構成する人々が本當の意味、自由の精神を體得してゐなければならない。そして、各人が其の本當の意味の自由の精神を體得するようになるにはおさなき頃より各家庭においてその精神が養成されなければならない。

つまり、新らしい政治教育は母親の膝の上から始められ、遊戯において、學校において續けられなければならないものです、そしてそれが本當の意味の自由の精神、及び　共同的精神を養ふことであるのです。

家庭においては兄弟姉妹を始め家族の全部と如何にせば調和が出來るかツ、幸福であるかを敎へられ、學校においては敎師から共同の術が敎へられるならば、それが本當の新らしい政治敎育です。

すべての運動競技はその勝敗を度外視して、兒童の共同的精神に資するところであつて始めて意義があり有効です。

今までは政治教育といへば政治學を學んだりその時々の出來事を研究したりすることでありました。けれども、新らしい政治の精神はそんなものからは得られません。新しい政治を施した國民の政治的資格は社會意識に目ざめてゐなければならない。そして、それは家庭から始め學校を通じてゞなければ出來ない仕事です。

今日、私共は、政治の殊に都市行政の腐敗を耳にしてゐるのみならず、至る所に政治上の收賄事件を目擊してゐます。けれども、私共の子供を、ことに、靑年男女をして眞　國民の意義並に責任觀念を適當に理解させて置かないで、どうして將來におけるよりよ　政治を期待することが出來るでせうか？　ですから、目下の必要は何は置いても少年並に靑年男女　責任觀念を養成することです。藝術家や、學者や、農業家や、實業家を養成すると同じように、本當の意味の國民を養成することに今の私共が努力し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

なければならないのです。

そして、それに對する特別な機關が必要であることは勿論ですが、差し當りは各家庭が政治教育機關と　ることです。

宗教家の家庭が宗教的であるように新時代にふさはしい國民を造る家庭は政治的であらねばならないのです、朝の食卓において父なり母なり其の他誰でもがその日その日の議案を提出する。そして、一日の活動は其の議案の調査であり、研究であり、そして、晩の食卓において、これを討議するといふように。つまり、家族といふ團體において充分に家族に對する個人の責任、並びに共同的精神を養成するこゝによつて社會又は國家に對する責任、並びに共同的精神が生じ、民主々義的政治に適當な國民が出來上がるのです。

こういふ日課を踏むことによつて國民一人々々の行爲の正邪は正しく判斷出來るようになり各人が要求する有益な娯樂の種類は定まり各人がむ讀新聞の選たくもかしくこくなり從つて、社會はだんだん健全になつて行います。

家を外にして政治運動に參加したり、政治的演說會に加はつたり、今日のいはゆる政治問題を論議したりすることばかりが政治的行爲でなく、毎日々々の朝から晩までの各人の行爲が政治的行爲であることを新時代の婦人はシツカリと體得して、その意義を子女を始め家族の全部に徹底させるよう　つとめるのが重要なる任務です。

かく、家庭において教育されてゐるならば烏合の衆に引きづられて、つまらないことに雷同するようなことは絶對になく、自分の正しいと思ふ人物を選擧することも出來るし、正しいと同時に賢い提案もすることが出來るようになります。そして、それが偉大なる政治上の力であります。

まづ、大體　いて、こういふ氣持ちを持つての毎日の活動が本當に新らしい意味の國民的活動であります。即ち、責任と、一致共同と、それから、創意とのこの三ツのものが自治制の三位一體、いひかへれば眞髓であ　ます。

そして、この自治の精神の苗床は家庭をおいて外にないことを私は强く提唱するものです。

或る論者は申します。各家庭をさういふ狀態となすことが問題であると。けれども、私は申します。とにかく、婦人がその點に氣づかねばならない。氣づかしめなければならないと。

宇宙間において、最大なる力は調和です。遠心力と求心力の調和が太陽系の存在の最大條件であります。そして、人事における調和をはかる力は婦人の手のうちにあります。婦人がこの力の創造者であります。なぜな　、婦人は家庭に於ける中心即ち太陽であるからです。

婦人がこの點に氣づき、その方針をもつて働き始めなければ、永久に調和ある自治的國民は創造されず、既に輸入ずみになつた自治制、即ち、普通選擧は永人に人をひき殺す器械であるでせう。

青年男女の目標「日本第一」

一體、男子であれ、女子であれ、小學校を卒業する人達、中等學校を、大學を乃至專門學校を卒業して社會に出る人達は、日本と云ふ國が有形無形にどう云ふ位置にあるかと云ふこと、又は一個の人間として一日本國民としてどう云ふ覺悟を持つてゐなければならないかと云ふことを充分に知つてゐなければならない筈

です。その點は充分に教育されてある筈です。
なぜなら、それが國を統一する上の我が國の精神であるべき筈ですから。
外の點はどんなに違つてゐても、一日本國民としての覺悟だけは萬一主義であるべき筈です。
處が、實際には、我が國の生命である其の點が全く除去されてあるかのような觀があります。
我が國の生命である其の點は全く忘れられて、そして、あつてはならない或る一つの氣持ちが今日の若い男女の頭を支配してゐます。
勿論全部とは申ませんが、先づ、大體に於て、今日の教育らしい教育を受けた人は自分を生んだ日本と云ふ國を見くびつて居ます。我が國は小さくて貧弱でおまけに人口が多すぎるから日本に居ても將來の見込みが立たないと云ふような觀念を一般に今の若い人達は持つて居ます。
つまり、自分が日本人であると云ふことを喜ばない自分を生んだ國を輕蔑する。そして、何んでも立派な意義ある生活をするには海外へ發展して行かなければならないように、産兒は制限して、なるべく生まないようにしなければならないと云ふような考へを現代青年男女の殆んど凡てが有識無意識のうちに持つて居ます。
そして、高い教育を受ければ受ける程、その觀念をハッキリさせて行きます。
ですから、政治的にも、經濟的にも、法律的にも、文學的にも、自分の國を卑しめて外國を崇拜するようになつて居ます。
で、こう云ふ風に、一般の青年男女が悲觀的になると云ふのは、教育家を始めとして所謂指導者の頭が、既でに、悲觀的に傾いてゐることの證據でありませう
祖國と苦樂を共にすることを嫌つて、外國へ逃げて行かうとするような非國民的な人間や、常に、外國を崇拜して祖國を呪ふような人間はどんどん何處へでも行くがよろしいが、併し、さう云ふ非國民的氣分を前途有望な、今、學校から社會へ出ようとする青年男女に感染させないように注意しなければなりません。
同時に、家の並びに國の基礎であり、榮へである人

口を、よりよくしようとは考へずに、育てる苦勞を避けようとして無暗みに制限しようとする意氣地のない態度を私は排斥致します。

人生は肉體的に精神的に奮闘です。

ですから、學校から、親の保護から離れて社會へ出た時にはまるで暗やみに投げ出されたようなものであるかも知れません。けれどもそこが暗いから何處か明るい處へ逃げて行かうとすることは負けた生活です。

暗ければ、努力して自分で光りを發して見よう。自分でともしびをつけて見ようとするのが本當に有意義な生活です。そして、自分でともしびをつけようとすることは自分で仕事を發明することです。

最後に、前途有望な、未來の國家を背負つて立つ青年男女に申上げて置きたいことは、世界に於ける我が日本の今日の位置であります。

今日の世界は白人が優勢であつて、そして、有色人種は一歩々々と蠶食されつゝあります。

そして、今、白人の對照となつてゐるのは東洋であつて、東洋人種、並びに、東洋文明なるものは、支那にしろ印度にしろ、殆んど白人に蹂躙されてゐると云ふ狀態です。印度及び支那が最後の一擧をまぬがれて居るのは日本があるからです。

故に、今日の日本の盛衰興亡は東洋の盛衰興亡です

これを考へる時に、私共日本人は西洋の文化を利用する分にはどんなに利用してもよいが、併し、西洋を崇拜する餘まり精神的に引ひては肉體的に西洋の奴隷になつてはなりません。

英國人や米國人は世界の何處へ行つてもはゞをきかせてゐます。けれども、支那人や印度人は何處へ行つても、たとへ、英米人と同じ仕事をして居てもちつともはゞがきかない處ではなく、まるで奴隷の狀態ではないかとさへ思へます。

と云ふのは、英國人や米國人は彼等の本國がシッカりして居るからです。それに反して支那人や印度人の本國は白人に對して殆んど全く勢力が無いからです。ですから、私共日本人に取つては矢張り日本第一で無ければなりません。

今、學校から社會へ出ようとする青年男女に、私は「日本第一」と云ふ標語を追是します。

八十年以前の或佛蘭西人の豫言

非常に豫言的な本能を持つた或る佛蘭西人が世界の危險がいつか一度は露西亞から來る、そして、新聞紙がこぞつて文明の破壞を促進すると豫言しました。で彼の言葉を此處に擧げて見るならば、

今日の世界主義的民主々義は其の最後の結果として戰爭を惹き起し、その戰爭から全世界の國民に嫌はれる或るものを造り出す。そして、地球上に於て最も高い文明を持つと誇つてゐる國民等が彼等の政治的亂淫に彼等自身を疲らせてしまつてゐる時、北方則ち露國の水門は開かれる。

其の水門から流れ出す水、則ち、無數の無學な野蠻人の勢力、及び、それ等の野蠻人を賢く馭して行く狡猾な支配者の勢力は萬國にそゝがれ、そして、萬國民は苦しめられる。

それ等の支配者のうちの主もなる者は普通一般の人間から見れば非常に優れて利口である。何となれば彼等は各國に住居した經驗を持ち、各國の事情に精通し、そして、如何にして各國民を支配し得るか、又、支配せねばならぬかをよく會得してゐる。——それ等の支配者とは各國に散在してゐて各國の政界を充分に理解してゐる猶太人を意味します——

無學無能な莫大なる人口を有する、則ち、眠つてゐる露西亞と云ふ巨人はいつか一度は起き上がり、そして、腕力が言論の代りとなる。その時には、非常な犧牲を拂つて獲得した平等は民衆を幸福にする代りに彼等を窮地に陷れる。けれども、さうなつた時に救ひを昔の貴族政治に求めてももう及ばない。世界平和のためと云ふ理由で解いてしまつた武裝をもう一度取り上げても、握り方を忘れてしまつた手で武器を振り廻しても其れは最早無力だ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

故に、社會は實行の伴はない、乃至は矛盾だらけな社會主義や共產主義のような理想國家の甘言に倒されるのである。

そして、其の破壊を促進するものは間違つた輿論の反響、則ち、新聞である。

新聞は一人でも多くの讀者を得ようとあせるあまりに、それが國家に乃至社會に如何なる影響があるかと云ふことなどには無頓着にひたすらに讀者の興味をそゝることに腐心し、そして、世界の破壊を益々押し進めて行く。

則ち、新聞なるものは社會の死骸の上に生活しようとして社會を殺すものである。

と、豫言した人は「一八三九年の露西亞」と題した書物の著者アストルフ・ド・クスメンヌであります。

この豫言を八十年後の今日讀んで私共は大いに思ひ當ることの多いのに寒心せずには居られません。

二　種類の結婚

結婚後何年目かに來るといふ結婚倦怠症といふことが折々問題にされますが、思ふにこれは結婚生活の全部が蜜のやうに甘い樂しいものだと想像してゐてそして、結婚當時こそ其の甘さ樂しさを十分に味はつてゐても併し、月日を重れ、慣れるに從つて其の甘さ樂しさが稀薄になり從つて生活苦（經濟的）といふやうなことが馬鹿に目立つやうになつたりして、日日の生活がいはゆる味氣なくなることをいふのだらうと思ひます、かう解釋して見ると結婚倦怠症などにかゝる夫婦といふのは結婚を全然自己滿足の手段と考へてゐる、つまり、この人生をあまりに利己主義的に考へてゐる結果ではないでせうか？

想像するに、昔風の夫婦は家のためとか、子孫のためとか、または國のためとかいつて自分等の結婚生活以外に自分等の生きる目的を置いてゐたので、その目的に奉仕するに忙しく、結婚生活そのものに倦怠を感

するやうないとまが無かつたやうです。

　けれども、所謂個人主義的思想が優勢である現今に於ては、生きる目的を自分以外に置くと云ふやうなことは流行致しません。現代の所謂目ざめたと稱する婦人によりも、昔風の婦人におうやうな落付きと平和なあたゝか味を見出すと云つた人がありますが、それ等の昔風の婦人は現代的婦人の目には奴隷的生活者のやうに思へても、併し、その性質に於ては、家を、子孫を國を、自己のうちに抱擁し得てゐた立派な社會人であつたかも知れません、從つて、個人としての目ざめはあつても社會人としては無自覺な現代の婦人よりも幸福の量が多分に持つてゐたのでありませう。

　私共は一人でこの世の中に生きてゐるものではありません、個人としての存在であると同時に社會人としての存在です、一寸考へてもすぐ分るやうに、都會に住む私といふ一個の人間を生かして置くためには、無數の人々が働いて居ります、田畑を耕す人々、海に漁る人々、はたを織る人々、燃料を造る人々、燈火を用意する人々……そしてそれは私がこの社會の一員であればこそです、それを思ふならば私もまた一社會人としてそれ等の人々のために何か爲す處が無ければならず、何か爲さうとするならば生活倦怠などゝ呑氣なことをいつてゐる暇がありません。

　昔風の婦人は受ける喜びを知つてゐると同時に、與へる喜びも知つてゐました、けれども今の多くの婦人は受ける喜びだけを知つて與へる喜びを知りません、そして與へることをせずに受けることばかり期待しても、さうは行かないことが自然の法則でありますからさういふ心の持主が不滿や淋しさを感じるやうになるのはあまりに當然な成り行きです。

　昔風の婦人は周圍を抱擁し得て幸福であつたといつても、それが全然自發的ではなく、外部から强ひられてゐた點があつたらうといふことも考へられるのでありますが、併し、かたちの上からいへば矢張り夫れが自他の幸福の源でありますから、新時代の婦人もさうありたい、しかも、かたちの上ばかりでなく內容をも充實させたい。昔風の婦人と新時代の婦人との違ふ點は、前者が無意識であつたに反して後者は有意識でな

ければならない、つまり一個人としての自覺を持つと同時に社會人としての自覺を持たなければならない、言ひかへれば、一個人としての權利を享有すると同時に、一社會人としての義務を忘れてはならない。

少くとも、一個人としては有意義に、一社會人としては有益に生活して行かうとするならば誰でも日も猶足らない程忙しくあるに相違ありません、自己向上のための修養も必要なら、積極的に社會のために働かないまでも、社會に迷惑をかけまいとするだけでも可なりな仕事があるものです。ですから徒に倦怠症などにかゝる人はあまりに利己主義者であり、氣樂はうであり、頽廢的な人間であらうといふ思ひを私は禁ずることが出來ません。

編輯の後

外へはなるべく出ない方針をとつて居りますが、それでもさうばかりは出來ませんで、今月は大分出歩きます。三月三日には、私の祖母、父、兄嫁の生地で「女子青年會」を組織したから發會式に來て講演をして吳れと云はれて見ればやつぱり行く氣になつて出かけたり、大澤豐子女史に賴まれてラヂオの講演に行つたり「婦人の國」の批判會に出席したり、勿論、書かなければならないものが後から〳〵とつかへてゐるのに、間で三日ばかりかぜをひいたり、それからこの雜誌をスッカリ仕上げて置いて宇治山田市へ行つて來ます市と青年會と處女會との聯合講演會がありますから。生れて初めて伊勢神宮へおまいりします

本誌臨時定價表

一册	金七錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	送料共

雜誌代及郵稅は前金の事
御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと
郵券代用は五厘切手にて一割增
廣告は御照會次第御相談いたします

大正十五年三月廿三日印刷納本
大正十五年四月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN